

ストリート名	ストリートの将来像 (たたき台案)
① 弁天ルート (弁天通り～駅直近区間)	駅と万代地区・水辺をつなぐ弁天ルートのゲート空間 ～新潟の食と酒文化を体験できる昼夜ともに賑わいがあふれるストリート～
② 弁天ルート (弁天通り～弁天2丁目区間)	駅周辺と万代地区の賑わいをつなぎ、歩いて楽しいストリート ～沿道の魅力的な店舗と低未利用地の活用により弁天ルートのにぎわいを連続させる～
③ 旧新潟駅前通	多様な人が留まり憩う、居心地が良いパークストリート ～新潟駅へのアクセス道路としての役割から思い思いに多様な過ごし方を受け入れる豊かな滞在空間へ～
④ 弁天ルート (万代ガルベストーン通り区間)	沿道店舗と連携した開放的な賑わいづくりと周辺と一体的な広場的ストリート ～多様な来訪者が居心地よく楽しく回遊できる体験型・時間消費型の空間～
⑤ 市道南2-2号線 (万代シテイ通り)	新たな万代シテイを象徴する、歩行者中心のウォークラブルなストリート
⑥ 弁天ルート (東港線～信濃川区間)	信濃川やすらぎ堤へ向かい歩きたくなる弁天ルートの終着点 ～沿道の再開発と連携した歩行空間の連続性の確保～
⑦ 市道八千代1号線 (ビルボードプレイス前の通り)	“まち”と“かわ”をつなぐ、やすらぎ堤への玄関口 ～商業施設や沿道開発との連携により、新たな回遊を生み出すストリート～
⑧ 東大通り (新潟駅～流作場五差路区間)	風格と機能を併せ持つ都心の象徴的なストリート ～駅とまちをつなげ、沿道と一体となった緑豊かで居心地がよい人中心の空間へ～
⑨ 萬代橋通 (流作場五差路～萬代橋区間)	駅・万代地区と信濃川、古町地区をつなぐストリート ～点在する公共空間の特性に合わせた使い方によりまちでの思い思いの過ごし方を可能とする空間～
⑩ (都) 新潟駅西線	駅南北のアクセス機能を担うストリート
⑪ けやき通り	おしゃれな個店が並び、ケヤキを象徴とするストリート ～万代口との回遊を生む緑豊かな空間～
⑫ 弁天線 (南口駅前通り区間)	交流の活発化によりイノベーションが生まれるストリート ～交流の活発化からイノベーションの促進につながる雰囲気づくり～
⑬ 新潟駅周辺 (新万代広場／高架下交通広場／南口中央広場)	(万代) 人が集まり、まちなかへ歩きたくなる広場 (南口) 広域交流の玄関口
⑭ 花園ルート (駅直近区間)	駅と“みなと”をつなぐ花園ルートへのゲートストリート ～都心軸の東西で対を成す、新潟の酒と食を楽しむおもてなしエリア～
⑮ 花園ルート (明石通り～万代町通り区間)	駅と“みなと”をつなぐ花園ルートの混合土地利用エリア ～商業・事業・居住など多様な安全なストリート～
⑯ 花園ルート (万代町通り～東港線区間)	来街者や地域住民が憩う閑静な休息エリア ～公開空地や低未利用地を活用したやすらぎの空間～
⑰ 花園ルート (東港線～信濃川区間)	万代テラスへ向かい歩きたくなる花園ルートの終着点 ～万代テラスの眺望に期待感を抱かせる空間演出～

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和29年（1954年）、新潟駅移転に伴う急便な市街化に対処することを目的に実施された新潟駅前土地区画整理事業で整備され、発展してきた商店街
- ・通りの名称は、弁天を祀ったことが由来となっており、沿道には弁天様を中心に七福神のモニュメントが設置されている

【現場写真】



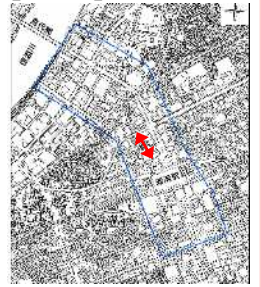
【現況の特筆事項】

- ・沿道に夜の飲食店に加え、最近では、昼も営業する店舗が立地
- ・新潟のお酒等の食文化を味わえるお店が立地
- ・駅から万代地区に向かうメインルートとして、多くの歩行者交通量がある
- ・商店街でのイベントが開催されている

【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：11.0m 構成：歩道3.0m-車道5.0m-歩道3.0m	その他	ロードヒーティング 電線類地中化
交通規制	一方通行、両側歩道		
用途地域	商業地域		
土地利用	飲食店、コンビニ、カラオケ、金融機関、等		
交通量	自動車交通量：1,200台/14h (R2.12/新潟駅周辺交通量調査業務委託) 歩行者交通量：12,985人/11h (ラマダホテル前/R1.10.19(土)/新潟市商店街連盟)		
公共交通	公共交通：バス路線なし、バス停なし 駐輪場：沿道に駐車場なし		

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

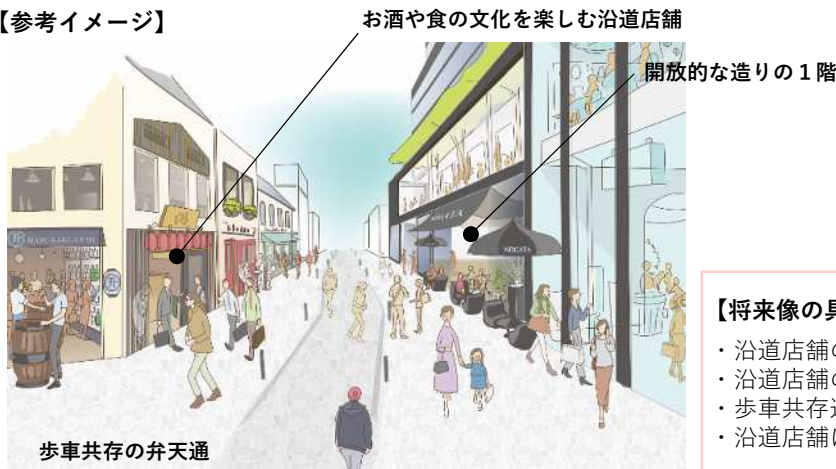
（弁天ルート共通の役割）

- ・新潟都心の都市デザインにおける副軸「弁天ルート」のコンセプト
沿道の店舗と連携して、訪れた人がより開放的な賑わいや、新潟らしさを感じながら水辺へと誘われる仕組みづくり
- ・将来ビジョンの目指すべき将来像「2核・水辺・3モール」のモールの1つに位置付け

【ストリートの将来像】

駅と万代地区・水辺をつなぐ弁天ルートのゲート空間
～新潟の食と酒文化を体験できる昼夜ともに賑わいがあふれるストリートに～

【参考イメージ】



【将来像の具現化への取組例】

- ・沿道店舗の軒先の利活用の実践
- ・沿道店舗のファサードや設えの誘導
- ・歩車共存道路の空間づくり
- ・沿道店舗による新潟の食文化を堪能できる取組 など

【周辺エリアとの「つながり」】

- 駅と万代地区、水辺とのつながり・・・駅から万代地区、水辺へと足を運んでみたくなるような沿道空間の利活用を推進する
- 花園ルートとのつながり・・・花園ルートを含めた一体的な空間形成、回遊を促す仕組みづくり

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

（ストリーートの使われ方）

ストリーートの成り立ち

- ・昭和29年（1954年）、新潟駅移転に伴う急便な市街化に対処することを目的に実施された新潟駅前土地区画整理事業によって整備され、発展してきた繁華街

【現場写真】



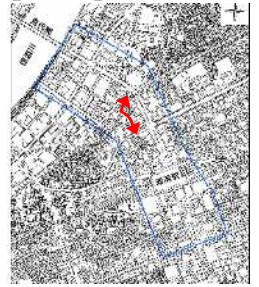
【現況の特筆事項】

- ・沿道に個性的で魅力的な店舗が立地
- ・駐車場等の低未利用地が点在
- ・駅から万代地区に向かうメインルートとして、多くの歩行者交通量がある
- ・旧駅前通り側のアイストップの景観が乱雑（看板、駐輪場）

【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：11.0m 構成：歩道3.0m-車道5.0m-歩道3.0m	その他	電線類地中化
交通規制	一方通行、両側歩道		
用途地域	商業地域		
土地利用	飲食店、事務所、金融機関、駐車場等		
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：		
公共交通	公共交通：バス路線なし、バス停なし 駐輪場：1か所		

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリーートの役割

（弁天ルート共通の役割）

- ・新潟都心の都市デザインにおける副軸「弁天ルート」のコンセプト
沿道の店舗と連携して、訪れた人がより開放的な賑わいや、新潟らしさを感じながら水辺へと誘われる仕組みづくり
- ・将来ビジョンの目指すべき将来像「2核・水辺・3モール」のモールの1つに位置付け

【ストリーートの将来像】

駅周辺と万代地区の賑わいをつなぎ、歩いて楽しいストリート
～沿道の魅力的な店舗と低未利用地の利活用による弁天ルートのにぎわいを連続させる～

【参考イメージ】



新栄テラス（福井県）（出典：国土交通省資料）

駐車場を活用した広場でイベントが開催

周辺の店舗が定期的に出店

【将来像の具現化への取組例】

- ・沿道の低未利用地の利活用（イベント等）
- ・歩車共存道路の空間づくり
- ・沿道店舗の軒先の利活用の実践
- ・沿道店舗のファサードや設えの誘導

など

【周辺エリアとの「つながり」】

○駅と万代地区、水辺とのつながり・・・駅から万代地区、水辺へと足を運んでみたくなるような沿道空間の利活用やにぎわいの創出を図る

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

(ストリートの使われ方)

ストリートの成り立ち

- ・明治37年（1904年）新潟駅が開業し、新潟市から万代橋を渡った先にぶつかる形で新潟駅前通が整備された
- ・萬代橋を渡った先から東に万代町通、西に新潟駅通となる交差点は流作場三差路(現在の流作場五差路)と呼ばれるようになった
- ・昭和33年（1958年）新潟駅の移転に伴い、新潟駅前通から旧新潟駅前通となる

【地域の資源】



地域のプレイヤーや学生が主体となって企画実施したストリート活用実験「流作場StreetPark」(2021.10.2～3)



商店街は組織されていないが沿道に個性的な飲食店等がみられる

【現状の特筆事項】

- ・幅員に対して断面交通量は少ない（両方向2,400台/12h）
- ・東大通から流入するバス交通が多い（300台/日）
- ・電線があることでカラスの糞害が多い

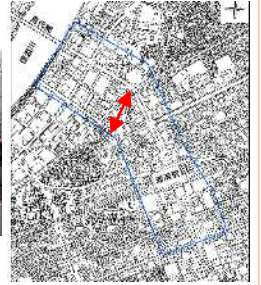
【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：21.5m 構成：歩道3.0m-車道15.0m-歩道3.5m
交通規制	相互交通、両側歩道
用途地域	商業地域
土地利用	駐車場、駐輪場、飲食店、住宅等
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：
公共交通	バス路線5路線、バス停2か所

【現場写真】



【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

- ・旧新潟駅前通の歴史的背景を踏まえた、新潟のシンボルとなるストリート
- ・まちなかに自然がたくさんある落ち着いた、くつろげるストリート
- ・沿道と一体となった活気のあるストリート
- ・弁天公園と一体的に活用でき、ときにはイベントの実施等にも対応できるストリート

【ストリートの将来像】

多様な人が留まり憩う、居心地が良いパークストリート

～新潟駅へのアクセス道路としての役割から
思い思いに多様な過ごし方を受け入れる豊かな滞在空間へ～

【参考イメージ】

1階層がガラス張りやオープンになっている。軒先も一体で賑わいが滲みだしている



道路を活用したマルシェなどが開催されている

夜間照明を考慮したデザイン

ベンチなどで多様な人がくつろいでいる

多様な人々が楽しそうに過ごしている

【将来像の具現化への取組例】

- ・道路空間の再編
- ・マルシェなどイベント開催
- ・オープンカフェ
- ・沿道建物の景観形成への取組など

公園や広場のようにリニューアルされた旧新潟駅前通りの休日

【周辺エリアとの「つながり」】

- 弁天公園とのつながり・・・弁天公園と旧新潟駅前通が一体となって憩いの空間が形成されるよう、弁天公園と連続した空間づくりと空間活用を行う
- 流作場五差路とのつながり・・・自動車交通のあり方の見直しとともに、流作場五差路の変則的な交差点との連続性に配慮することで、立ち寄りたくなるような魅力ある都市空間に転換していく（流作場五差路の歩道と一体となったまちかど広場の創出など）

将来

(目指す姿と必要な施策)

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和4年（1929年）信濃川の流量減少に伴い、実施された信濃川両岸の埋立工事の際に整備され、埋立当初は鉄道局関係施設と官庁が多く立地していた
- ・昭和48年（1973年）に新潟交通の自社敷地を越え新幹線、北陸自動車道開通を機に商業施設へ転換し万代シテイが開業した
- ・平成6年（1994年）に新潟市と姉妹都市関係にある、テキサス州南東部の玄関口にあたる湾岸都市「ガルベストーン市」との友好の証として、万代シテイにガルベストーン通りが誕生した

【現場写真】



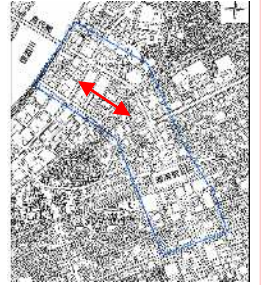
店舗前の空地の魅せ方を工夫



【現状の特筆事項】

- ・コロナ禍の2020年に道路空間を活用した社会実験を実施
- ・地元商店街と調整しながら沿道建物と一体となった高質な空間が形成されている
- ・商業施設への買い物客でにぎわっている

【位置図】



【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：11.0m 構成：歩道6.0m - 車道5.0m	その他	植栽（ケヤキ）、電線類地中化
交通規制	一方通行、片側歩道（西側は公開空地に歩行者空間有）		
用途地域	商業地域		
土地利用	大型商業施設、飲食店、コンビニ、小売店舗等		
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：11,482人／（万代ガルベストーンテラス社会実験／R2.休日12h）		
公共交通	公共交通：バス路線なし、バス停なし 駐輪場：沿道に駐輪場なし		

地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

（弁天ルート共通の役割）

- ・新潟都心の都市デザインにおける副軸「弁天ルート」のコンセプト
沿道の店舗と連携して、訪れた人がより開放的な賑わいや、新潟らしさを感じながら水辺へと誘われる仕組みづくり
- ・将来ビジョンの目指すべき将来像「2核・水辺・3モール」のモールの1つに位置付け

【ストリートの将来像】

沿道店舗と連携した開放的な賑わいづくりと
周辺と一体的な広場的ストリート

～多様な来訪者が居心地よく楽しく回遊できる体験型・時間消費型の空間～

【参考イメージ】



日常的な憩いと賑わいがある

土休日はイベントが開催されている



万代ガルベストーン通のイベント

【将来像の具現化への取組例】

- ・マルシェなどイベント開催
- ・オープンカフェ
- ・沿道建物の景観形成への取組
- ・歩行者利便増進道路制度の活用など

【周辺エリアとの「つながり」】

○駅と万代地区、水辺とのつながり・・・駅から万代地区、万代地区から水辺へと足を運びたいくなるきっかけの場所として、滞留できる空間づくりを行う

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和4年（1929年）信濃川の流量減少に伴い、実施された信濃川兩岸の埋立工事の際に整備された
- ・昭和48年（1973年）に新潟交通の自社敷地を上越新幹線、北陸自動車道開通を機に商業施設へ転換し万代シテイが開業した
- ・平成30年（2018年）街のシンボルであったレインボータワーの解体、及び万代シテイのリニューアル工事が開始され、万代シテイ通りについても改修工事が実施された

【現場写真】



【現況の特筆事項】

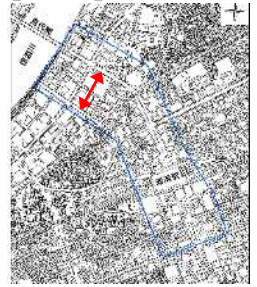
- ・令和3年度に歩道の改修工事が行われた
- ・万代シテイ側の空地（歩行者通路）も同時に改修され、官・民の空間が一体となった高質な歩行者空間が形成されている



【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：11.0m 構成：歩道3.0m-車道8.0m
交通規制	一方通行、片側歩道（両側の民有地に歩行者空間有）
用途地域	商業地域
土地利用	大型商業施設、クリニック、歯科、ホテル等
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：11,088人/9h（万代シテイガルベストーン通/R1.10.19(土)/万代シテイ商店街）
公共交通	公共交通：バス路線なし、バス停なし 駐輪場：1か所

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

- ・2核・水辺・3モールのうちの1核となる万代シテイの中心に位置し、ガルベストーン通と直行するストリート
- ・万代シテイ中心エリアリニューアル企画書では、「イベント時や週末は歩行者天国となり、単なる通過地点にとどまらない非日常的な雰囲気を演出します。」とされている

【ストリートの将来像】

新たな万代シテイを象徴する、歩行者中心のウォークブルなストリート

【参考イメージ】



「万代シテイ中心エリアリニューアル企画書」（2018.11.08新潟交通）に示された万代シテイ通りのイメージ

歩行者優先の街区づくり
イベント時や週末は歩行者天国となり、単なる通過地点にとどまらない非日常的な雰囲気を演出

【将来像の具現化への取組例】

- ・沿道店舗の軒先の利活用
- ・イベント開催
- ・歩行者天国 など

【周辺エリアとの「つながり」】

- 沿道事業者による継続的なストリートマネジメント・・・ほこみちを指定した道路では沿道事業者がストリート空間を沿道と一体にマネジメントすることが求められる。道路空間を活用したエリア価値向上や収益事業に取り組み、沿道事業者による継続的なストリートマネジメントを行う
- 万代クロッシングとの連携・・・万代シテイ通りと萬代橋通が交わる万代クロッシングは万代シテイ通りとも連携した活用を行う（イベントの同時開催や日常の管理の一体化など）

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和4年（1929年）信濃川の流量減少に伴い、実施された信濃川両岸の埋立工事の際に整備され、埋立当初は鉄道局関係施設と官庁が多く立地していた

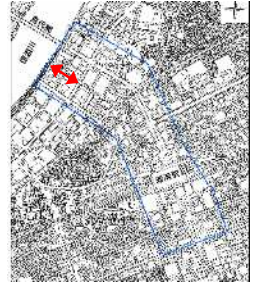
【現場写真】



【現況の特筆事項】

- ・やすらぎ堤に向かって右側の敷地の再開発に伴い、新たな歩行者空間が創出される見込み
- ・遠目に見て、やすらぎ堤のアイストップからそこがやすらぎ堤への入り口であることが認識しづらい。
- ・やすらぎ堤への入り口がバリアフリー化されていない。

【位置図】



【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：11.0m 構成：歩道3.5m-車道7.5m
交通規制	一方通行、片側歩道
用途地域	商業地域
土地利用	駐車場、空地、歯科、住宅等
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：
公共交通	公共交通：バス路線なし、バス停なし 駐輪場：沿道に駐輪場なし

地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

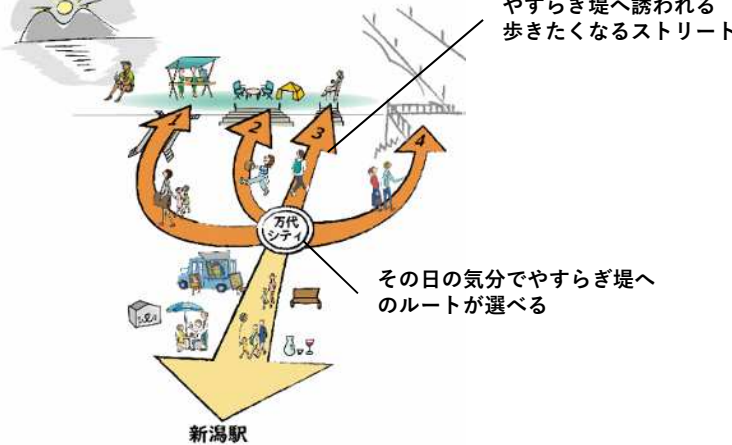
（弁天ルート共通の役割）

- ・新潟都心の都市デザインにおける副軸「弁天ルート」のコンセプト
沿道の店舗と連携して、訪れた人がより開放的な賑わいや、新潟らしさを感じながら水辺へと誘われる仕組みづくり
- ・将来ビジョンの目指すべき将来像「2核・水辺・3モール」のモールの1つに位置付け

【ストリートの将来像】

信濃川やすらぎ堤へ向かい歩きたくなる弁天ルートの終着点
～沿道の再開発と連携した歩行空間の連続性の確保～

【参考イメージ】



景観整備のイメージ
（静岡県三島市で取り組む、官民連携によるまちなかの花飾り）

【将来像の具現化への取組例】

- ・沿道建物の景観形成への取組
- ・沿道の再開発との連携
- ・歩きたくなる空間づくり
など

【周辺エリアとの「つながり」】

○万代地区と水辺とのつながり・・・万代地区から水辺へと足を運びたくなる歩行者ネットワークの形成や空間演出を行う

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和4年（1929年）信濃川の流量減少に伴い、実施された信濃川両岸の埋立工事の際に整備され、埋立当初は鉄道局関係施設と官庁が多く立地していた

【現場写真】



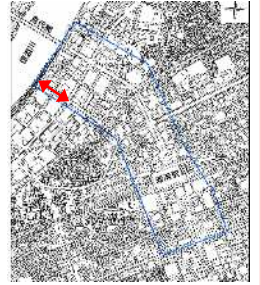
【現況の特筆事項】

- ・両側4車線の広幅員道路として整備されているが広域的な道路ネットワークを担う道路ではなく自動車交通量は多くない
- ・突きあたりのやすらぎ堤には幅広の階段が整備されている
- ・旧国土交通省新潟運輸総合庁舎跡地は現在定期借地による活用方策が検討されている

【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：22.0m 構成：歩道2.5m-車道17.0m-歩道2.5m
交通規制	相互通行、両側歩道
用途地域	商業地域
土地利用	大型商業施設、小売店舗、住宅等
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：
公共交通	公共交通：バス停2か所 駐輪場：1か所

【位置図】



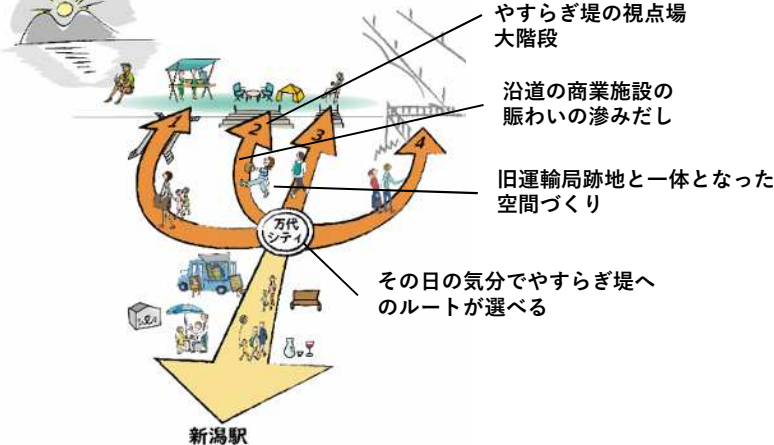
地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

- ・万代地区と水辺をつなぐルートの一部を形成するストリート
- ・商業施設ビルボードプレイスの賑わいを高めてまちに引き出すことも期待される

【ストリートの将来像】

“まち”と“かわ”をつなぐ、やすらぎ堤への玄関口
～商業施設や沿道開発との連携により、新たな回遊を生み出すストリート～

【参考イメージ】



沿道と一体的となった空間づくりのイメージ
【出典】新潟市都市計画マスタープラン改定案（抜粋）

【将来像の具現化への取組例】

- ・旧運輸局跡地と一体的な空間づくり
- ・沿道の商業施設との連携 など

【周辺エリアとの「つながり」】

○やすらぎ堤とのつながり・・・やすらぎ堤につながるルートであることの認知を広げて利用者を増やすには、やすらぎ堤側の取組も望まれる。例えば市道八千代1号線から北を望んだときに信濃川ややすらぎ堤を認識できるランドマークを設けるなど

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和29年（1954年）、新潟駅移転のために現在新潟駅がある場所の土地区画整理事業が着工され、42.4haの田を埋め立て、新駅から流作場までの幅50mの道路（東大通）とこれに直交する道路（明石通）が整備された
- ・流作場はバスや鉄道といった交通の拠点となる

【地域の資源】



【現場写真】



【現況の特筆事項】

- ・都市計画道路（万代島ルートや新潟駅西線等）の整備により、都心に関連する幹線道路網が構築されることで、都心軸および駅周辺への通過交通の抑制が期待される
- ・沿道の建物1階部分は事務所の入口など、沿道に開かれていない建物も多い
- ・沿道建物の老朽化が進行。一方で、建物の更新も進行
- ・東西方向の横断歩道が少なく、都心軸を横断して往来しにくい
- ・歩道にロードヒーティングが設置

モニュメント

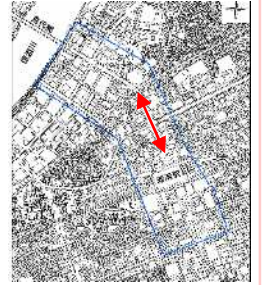


【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：50.0m 構成：歩道7.0m-車道36.0m-歩道7.0m
交通規制	相互交通、両側歩道
用途地域	商業地域
土地利用	飲食店、コンビニ、カラオケ、事務所、クリニック、小売店舗、金融機関等
交通量	自動車交通量：8,400台～20,800台/14h（R2.12/新潟駅周辺交通量調査業務委託） 歩行者交通量：
公共交通	公共交通：バス路線8路線（市内線、市外高速）、バス停10か所、タクシー乗り場あり 駐輪場：沿道に駐輪場なし

（その他）植栽（銀杏等）
歩道部にロードヒーティング
ガス灯

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

- ・新潟都心の都市デザインにおいて、都心軸の「東大通ルート」に位置付けられる
- ・当該将来ビジョンの目指すべき将来像「2核・水辺・3モール」のモールの1つに位置付ける

【ストリートの将来像】

風格と機能を併せ持つ都心の象徴的なストリート
～駅とまちをつなげ、沿道と一体となった緑豊かで居心地がよい人中心の都市空間へ～

【参考イメージ】



【出典】都市再生緊急整備地域 新潟都心地域の目指す姿（R3.11）

都市の風格を感じる
都市景観
グランドレベルのファサードが
オープンで活気がしみだしている
オープンスペースで寛ぐ

【将来像の具現化への取組例】

- ・通過交通の転換（万代島ルート、公共交通の利用促進など）と、段階的な道路空間の再編への取組
- ・敷地内や建物壁面、屋上空地の緑化
- ・沿道建物の景観形成への取組
- ・オープンスペースの創出
- ・多様な交通手段を選択できる環境づくり（走行空間やポートの設置など）

【周辺エリアとの「つながり」】

- 新潟駅とまちのつながり・・・新潟駅に降りた来街者がすぐにバスやタクシーに乗り込むことなく、まちなかへ歩き出したくなるような機能の確保と空間づくりを行う
- 弁天ルートと花園ルートとのつながり・・・現在は、弁天ルートと花園ルートは東大通で分断され、2つのルートを回遊する行動はあまり見られない。2つの副軸間を行き来がしやすくなるよう、東大通の断面構成の再編などを検討する

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和4年（1929年）に三代目萬代橋が完成した際に萬代橋と流作場三差路（現在の流作場五差路）をつなぐ道路として整備された

【地域資源】



万代クロッシング



萬代橋東橋詰広場



APAホテル前

【現場写真】



万代シティバス停

【現況の特筆事項】

- ・萬代橋橋詰広場や万代クロッシング、メディアシップやラブラ万代の空地など有効活用が可能な公共的な空間が点在している
- ・万代クロッシングの活用には消防法への対応が課題
- ・東港線十字路がスクランブル交差点化（R3）
- ・萬代橋東橋詰広場を活用したイベントも開催
- ・信濃川への動線がバリアフリー未対応



ラブラ万代前の空地



メディアシップ



初代萬代橋の遺構

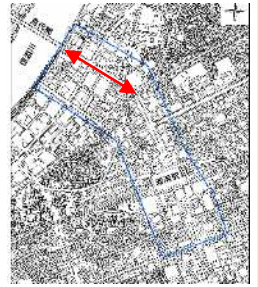


東港線十字路

【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：29.0m 構成：歩道4.5m-車道18.5m-歩道6.0m	（その他）植栽（銀杏等） 歩道部にロードヒーティング ガス灯／初代萬代橋の遺構
交通規制	相互交通、両側歩道	
用途地域	商業地域	
土地利用	飲食店、コンビニ、金融機関、大型商業施設、住宅等	
交通量	自動車交通量：22,500台／14h（R2.12／新潟駅周辺交通量調査業務委託） 歩行者交通量：9,743人／9h（ラブラ万代前／R1.10.19(土)／万代シティ商店街）	
公共交通	公共交通：バス路線6路線、バス停8か所 駐輪場：沿道に駐輪場なし	

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

- ・新潟都心の都市デザインにおいて、都心軸の「東大通ルート」に位置付けられる
- ・当該将来ビジョンの目指すべき将来像「2核・水辺・3モール」のモールの1つに位置付ける

将来

（目指す姿と必要な施策）

【ストリートの将来像】

駅・万代地区と信濃川、古町地区をつなぐストリート
～点在する公共的空間の特性に合わせた使い方により
まちでの思い思いの過ごし方を可能とする空間～

【参考イメージ】



萬代橋東橋詰広場でのイベント

【出典】にいがた2km STREET VISION



メディアシップのオープンスペース活用



万代クロッシングストリートアート展示



モビリティの走行空間イメージ

【出典】「2040年、道路の景色が変わる」国土交通省

【将来像の具現化への取組例】

- ・沿道に点在する公共的空間の特性に合わせた有効な活用と連携（社会実験等）
 - 萬代橋東橋詰広場
 - 万代クロッシング
 - メディアシップ
 - ラブラ万代等の空地
- ・通過交通の転換（万代島ルート、公共交通の利用促進など）と、段階的な道路空間の再編への取組
- ・多様な交通手段を選択できる環境づくり（走行空間やボートの設置など）
- ・沿道建物の景観形成への取組
- ・オープンスペースの創出 など

【周辺エリアとの「つながり」】

- 駅・万代地区と信濃川、その先の古町とのつながり・・・駅・万代地区から信濃川やその先の古町地区まで足を運んでみたくなるような空間づくりや、多様な移動手段を選択できる環境づくりを図る
- 万代シティエリアと万代東エリア、万代島をつなぐ・・・萬代橋通で沿道の地域が分断されており、沿道のエリアの回遊を促すような沿道の空間を活用したにぎわいの創出を図る

現状

(ストリートの使われ方)

ストリートの成り立ち

- ・昭和29年（1954年）新潟駅前土地区画整理事業によって整備された新潟駅北側の路線と昭和34年（1959年）新潟駅裏土地区画整理事業によって整備された新潟駅南側の路線

【現場写真】



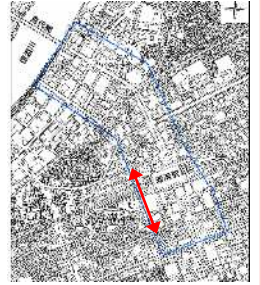
【現況の特筆事項】

- ・中・長距離バスターミナルの整備計画が進捗
- ・新潟駅南口西地区新潟都心地域優良建築物等整備事業（オフィス、商業、マンション）が進捗
- ・新潟駅西線の整備計画が進捗（2030年代前半に供用予定）

【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：8.0m／構成：車道のみ 幅員：22.0m／構成：歩道4.0m-自転車道2.0m-車道10.0m-自転車道2.0m-歩道4.0m（計画）
交通規制	相互通行、両側歩道
用途地域	商業地域
土地利用	ホテル、飲食店、金融機関、駐車場、住宅、コンビニ等
交通量	自動車交通量：3,700台／14h（R2.12／新潟駅周辺交通量調査業務委託） 歩行者交通量：2,903人／9h（プラウカ前／R1.10.19(土)／新潟駅前花園1丁目商工復興会）
公共交通	公共交通：バス路線なし、バス停なし 駐輪場：沿道に駐輪場なし

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

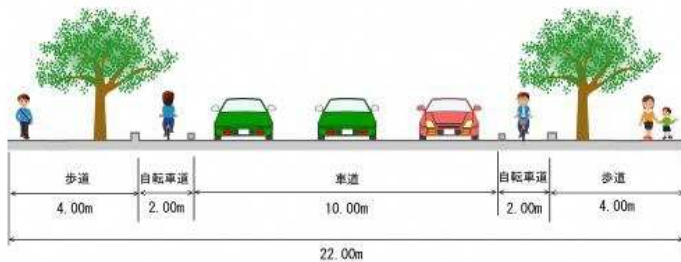
- ・都市計画道路に位置づけられ、2030年代前半頃の整備完了予定
- ・南北市街地の連続性の向上、駅へのアクセス機能向上、駅周辺地区の渋滞解消を図る。また、無電柱化の実施やバリアフリー化により、安全で快適な移動空間を確保する
- ・中・長距離バスターミナルのアクセス道路

【ストリートの将来像】

駅南北のアクセス機能を担うストリート

【参考イメージ】

- 整備延長：389m、幅員：22m
 - 安全で快適な移動空間の確保
- 標準断面図



【出典】「幹線道路整備事業の概要」（新潟市）



【将来像の具現化への取組例】

- ・新潟駅西線の整備（無電柱化の実施／バリアフリーに配慮した歩道や自転車道の整備）など

【周辺エリアとの「つながり」】

- 南北市街地をつなぐ・・・鉄道高架下を横断する補助幹線道路を整備することで、南北市街地の連続性の向上、駅へのアクセス機能向上、駅周辺地区の渋滞解消を図る
- 駅と郊外地域、他都市をつなぐ・・・中・長距離バスターミナルのアクセス道路として、駅と郊外地域や他都市をつなぐ役割を担う

将来

(目指す姿と必要な施策)

現状

(ストリートの使われ方)

ストリートの成り立ち

- ・昭和34年（1959年）スプロール現象を背景とする健全なる市街地の育成と住宅地の無制限的な膨張を規制することを目的に実施された新潟駅裏土地区画整理事業によって整備された
- ・平成29年には、けやき通りの歩道拡幅の整備が完了した。

【地域資源】



(左) 緑化されている



(右) 建物とストリートの緩衝地帯があるお店

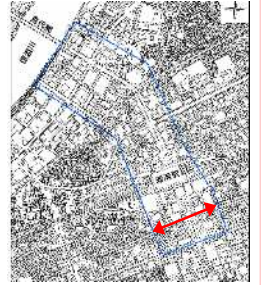
【現況の特筆事項】

- ・沿道には低層建物や駐車場等の低未利用地が分布
- ・ケヤキ並木が形成されている

【現場写真】



【位置図】



【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：16.0m 構成：歩道3.0m-車道10.0m-歩道3.0m
交通規制	相互通行、両側歩道
用途地域	商業地域
土地利用	駐車場、住宅、カラオケ、飲食店、大型商業施設等
交通量	自動車交通量：8,600台/14h (R2.12/新潟駅周辺交通量調査業務委託) 歩行者交通量：
公共交通	公共交通：バス路線 1 路線 駐輪場：沿道に駐輪場なし

地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

- ・南口広場へのアクセスルート

【ストリートの将来像】

おしゃれな個店が並び、ケヤキを象徴とするストリート
～万代口との回遊を生む緑豊かな空間～

【参考イメージ】



象徴的なケヤキを活かした「NIIGATA光のページェント」の開催

【周辺エリアとの「つながり」】

- 駅北側とのつながり・・・駅南北の回遊性の向上につながる取り組みを推進

将来

(目指す姿と必要な施策)

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和34年（1959年）スプロール現象を背景とする健全なる市街地の育成と住宅地の無制限的な膨張を規制することを目的に実施された新潟駅裏土地区画整理事業によって整備された

【現場写真】



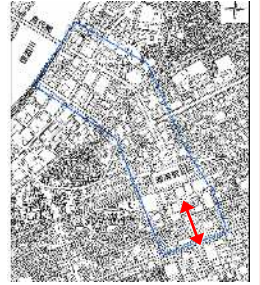
【現況の特筆事項】

- ・広幅員の歩行空間が両側沿道に確保されている

【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：60.0m 構成：歩道16.0m-車道12.5m-歩道16.0m
交通規制	相互通行、両側歩道
用途地域	商業地域
土地利用	駅前広場、大型商業施設等
交通量	自動車交通量：4,900台/14h（R2.12/新潟駅周辺交通量調査業務委託） 歩行者交通量：
公共交通	公共交通：バス路線2路線 駐輪場：沿道に駐輪場なし

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

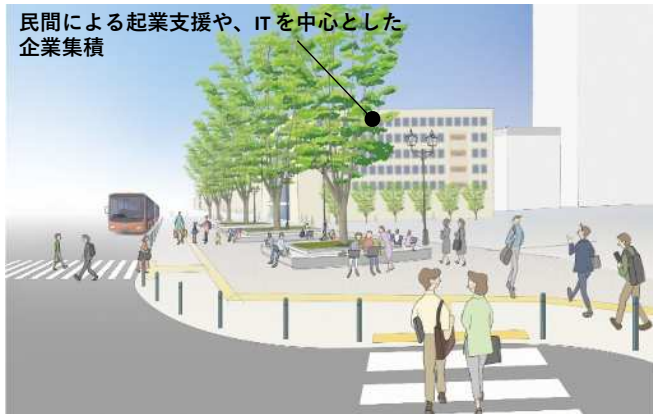
- ・民間による企業支援やITを中心とした企業集積を図るストリート
- ・駅前広場や道路など公共空間の多様な活用により、イノベーションの促進につながるストリート

【ストリートの将来像】

交流の活発化によりイノベーションが生まれるストリート
～交流の活発化からイノベーションの促進につながる雰囲気づくり～

【参考イメージ】

民間による起業支援や、ITを中心とした企業集積



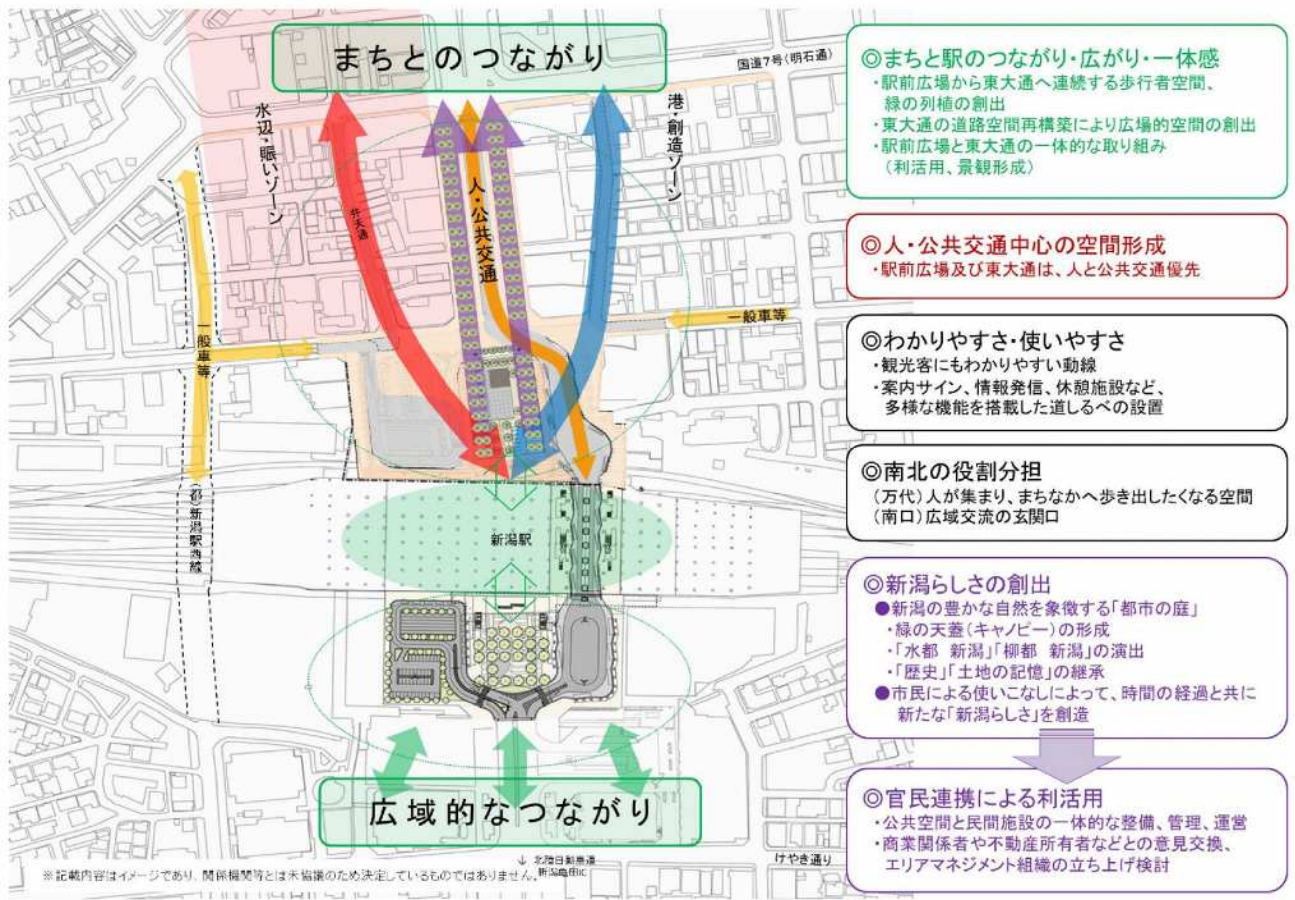
将来

（目指す姿と必要な施策）

○駅北側とのつながり・・・駅南北の回遊性の向上につながる取り組みを推進

○駅南側のスタジアム等の資源とのつながり・・・スポーツ観戦等による熱気が駅でも味わえるような、来街者を出迎える場所としての空間づくりを図る

【駅前広場の方向性】（仮称）新潟駅万代広場整備計画（令和2年10月）より



既往計画

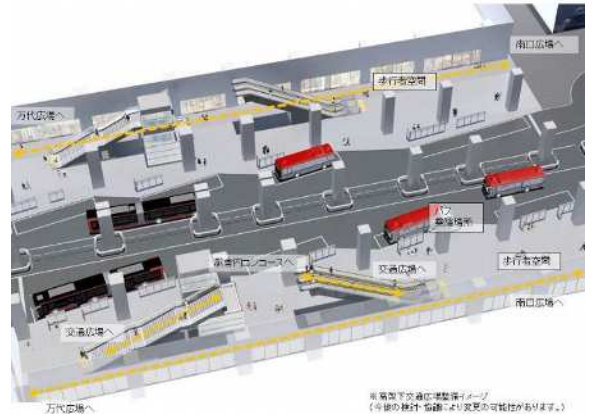
【万代広場の整備計画】

新潟の陸の玄関口として、鉄道とバスなどの交通が結びつき、乗り換えの利便性を向上させるとともに、新たな賑わいの創出やさらなる拠点性向上を図るため、緑あふれ、人々が憩い、集うことができる居心地のよい空間として、現在の万代広場を拡張して新たに整備する（2025年度完成予定）



【駅直下バスターミナル（高架下交通広場）】

交通結節点として鉄道との乗換え機能等を強化するため、新潟駅の高架下にバス乗降場を設け、万代広場と南口広場のバス乗降場と一体的な運用を行うことで、利便性の高いバスターミナルとして整備を行う。（2023年度完成予定）



将来ビジョンによる取組

○駅・広場・まちの一体的な運営（広場を使ったエリアマネジメント）

- ・広場の整備計画に掲げた方向性「まちと駅をつながり・広がり・一体感」ある駅前広場としていくため、整備後の広場を活用したエリアマネジメント



駅まちデザインの原則のひとつ「一体的で柔軟な運営」イメージ（国土交通省 駅まちデザイン検討会）



駅前広場（デッキ）への飲食購買施設「カシワテラス」の設置例（千葉県柏市 柏駅の例）

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和29年（1954年）、新潟駅移転に伴う急便な市街化に対処することを目的に実施された新潟駅前土地区画整理事業によって整備され、発展してきた繁華街

【現場写真】



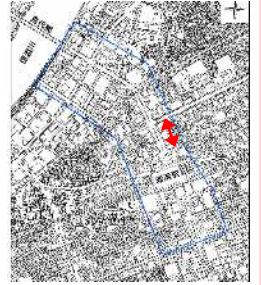
【現況の特筆事項】

- ・花園通りの東側はアーケード（上屋）が整備されている
- ・花園通東側の街区は飲食、居酒屋等の店舗がありビジネスホテルも多く立地
- ・店舗の業態や夜間の客引きの多さから安心して歩きづらいという意見がある

【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：11.0m 構成：車道8.0m-歩道3.0m
交通規制	一方通行、片側歩道
用途地域	商業地域
土地利用	飲食店、コンビニ、カラオケ、事務所、駐車場等
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：7,106人/9h（ガレソン前/R1.10.19(土)/新潟駅前商工復興会）
公共交通	公共交通：バス路線なし、バス停なし 駐輪場：1か所

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

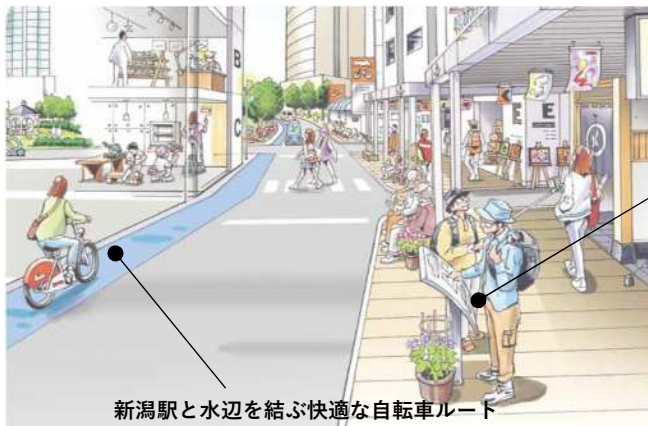
（花園ルート共通の役割）

- ・新潟都心の都市デザインにおける副軸「花園ルート」のコンセプト
新しくなかが創り出される雰囲気が感じられる。
駅から港へつながる雰囲気づくりや、楽しく快適にアクセスできる環境を創出
- ・2核・水辺・3モールのうちの1モールを形成するストリート
- ・駅東方面の玄関に位置し、駅から万代テラスや万代島をつなぐ
- ・新潟市自転車利用環境計画（H31.3月）にて「自転車走行空間整備路線」に位置付けられている

【ストリートの将来像】

駅と港をつなぐ花園ルートへのゲートストリート
～都心軸の東西で対を成す、新潟の酒と料理を楽しむおもてなしエリア～

【参考イメージ】



新潟駅と水辺を結ぶ快適な自転車ルート

わかりやすい案内サインなど、安心して歩ける空間づくり

【将来像の具現化への取組例】

- ・自転車走行環境の確保
- ・案内サイン など

【周辺エリアとの「つながり」】

○水辺とのつながり・・・連続した自転車走行環境の確保や案内サインなどにより、意識的に駅から水辺へと誘導する

○弁天通とのつながり・・・東大通を挟んで対となった副軸を形成する弁天通との連携を図る。

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・昭和29年（1954年）、新潟駅移転に伴う急便な市街化に対処することを目的に実施された新潟駅前土地区画整理事業によって整備された
- ・明治19年（1886年）初代萬代橋開通と同時に万代橋から沼垂町をつなぐ県道として造成された万代町通りと同じ土地区画整理事業によって整備された明石通に挟まれている区間

【現場写真】



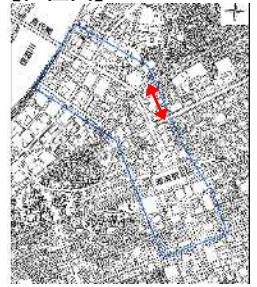
【現況の特筆事項】

- ・沿道に駐車場が多数立地している。そのため駐車場にアクセスしようとする車両の通行や駐車場への出入庫のため歩道を横断する車両が多い
- ・東側の後背地は、商業地域ながら戸建住宅も立地する複合的な土地利用となっている

【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：11.0m 構成：歩道1.5m-車道6.5m-歩道3.0m
交通規制	一方通行、両側歩道
用途地域	商業地域
土地利用	小売店舗、住宅、飲食店、駐車場等
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：
公共交通	公共交通：バス路線1路線、バス停1か所 駐輪場：1か所

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

（花園ルート共通の役割）

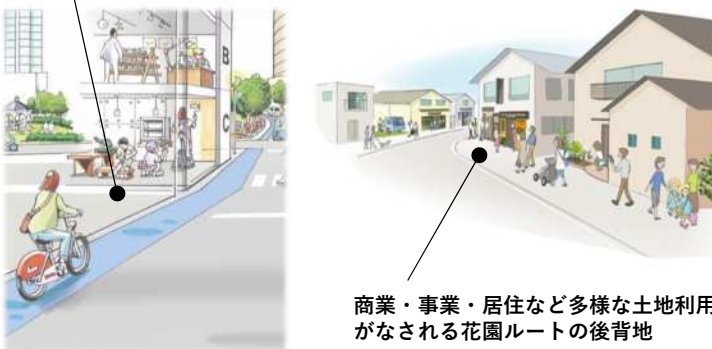
- ・新潟都心の都市デザインにおける副軸「花園ルート」のコンセプト
新しくなかが創り出される雰囲気が感じられる。
駅から港へつながる雰囲気作りや、楽しく快適にアクセスできる環境を創出
- ・2核・水辺・3モールのうちの1モール（花園ルート）を形成するストリート
- ・新潟市自転車利用環境計画（H31.3月）にて「自転車走行空間整備路線」に位置付けられている

【ストリートの将来像】

駅と“みなと”をつなぐ花園ルートの混合土地利用エリア
～商業・事業・居住など多様な安全なストリート～

【参考イメージ】

新潟駅と水辺を結ぶ快適な自転車ルート
（安全性向上のため駐車場出入口の注意喚起など）



商業・事業・居住など多様な土地利用がなされる花園ルートの後背地

【将来像の具現化への取組例】

- ・自転車走行環境の確保
- ・案内サイン など

【周辺エリアとの「つながり」】

○住宅の安全性向上や土地活用によるまちなか居住促進・・・商業地でありながら住宅地も混在する多様性は維持しつつ、エリア全体の安全性や景観に配慮して住宅の不燃化や容積の有効活用促進により、駅周辺のまちなか居住を促進する受け皿となる

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・この区間はかつて北越商業高校や新潟ホテルが立地しており、高校の移転、ホテルの建替えの後、平成になってから新たに整備されたストリート

【地域資源】



公開空地がある



【現場写真】



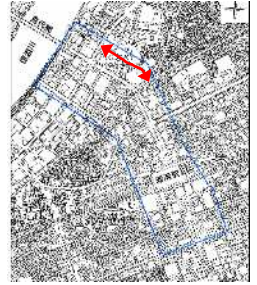
【現況の特筆事項】

- ・ANAクラウンプラザホテルでは公開空地を活用したイベントを行っていた
- ・令和2年には公開空地にベンチとテーブルを設置し滞留空間化する実験を実施
- ・土地利用としては駐車場が多く立地

【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：12.0m→11.0m 構成：歩道2.5m-車道7.0m-歩道2.5m→車道8.5m-歩道2.5m
交通規制	相互通行、両側歩道
用途地域	商業地域、近隣商業地域
土地利用	駐車場、住宅、飲食店、ガソリンスタンド、商業施設等
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：
公共交通	公共交通：バス路線なし、バス停なし 駐輪場：沿道に駐輪場なし

【位置図】



地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

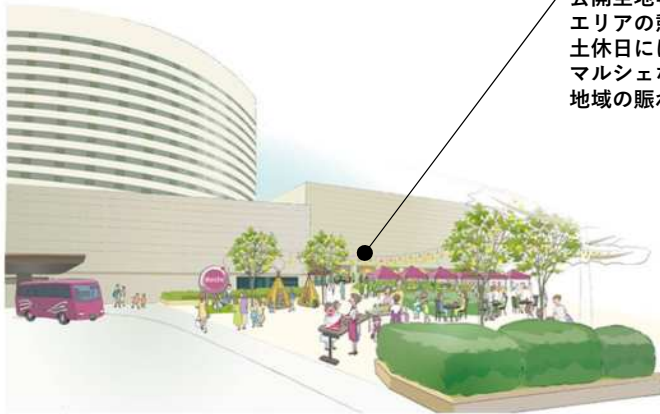
（花園ルート共通の役割）

- ・新潟都心の都市デザインにおける副軸「花園ルート」のコンセプト
新しくなかが創り出される雰囲気が感じられる。
駅から港へつながる雰囲気作りや、楽しく快適にアクセスできる環境を創出
- ・2核・水辺・3モールのうちの1モール（花園ルート）を形成するストリート
- ・新潟市自転車利用環境計画（H31.3月）にて「自転車走行空間整備路線」に位置付けられている

【ストリートの将来像】

来街者や地域住民が憩う閑静な休息エリア
～公開空地や低未利用地を活用したやすらぎの空間～

【参考イメージ】



公開空地等の活用により、
エリアの憩いの場と利用されている。
土休日には、
マルシェなどイベントが開催されるなど、
地域の賑わいの場としても活用されている。

【将来像の具現化への取組例】

- ・自転車走行環境の確保
- ・案内サイン
- ・公開空地の活用（イベントなど）

【周辺エリアとの「つながり」】

○宿泊施設等事業者との将来像の共有と連携・・・ストリート空間そのものだけでなく沿道やその背後に立地する宿泊施設事業者や駐車場を所有する事業者等との連携が重要になるため、このビジョン等を活用して沿道事業者とストリートや当該エリアの将来像を共有することに取り組む

将来

（目指す姿と必要な施策）

現状

（ストリートの使われ方）

ストリートの成り立ち

- ・信濃川の流量減少に伴い、昭和4年（1929年）から実施された信濃川両岸の埋立工事の際に整備された。
- ・このルートの信濃川沿いには、かつてドーム型のキャバレーやシャッター建築のライブスペースといった個性的なエンターテイメント施設が立地していた。

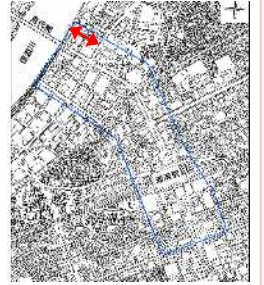
【現場写真】



【現況の特筆事項】

- ・メディアシップの東側に位置するほか、周辺には事業所や工場が多く立地する
- ・万代テラス直近街区には結婚式も立地している
- ・そのほかの土地利用としては駐車場が多く立地
- ・突き当りの万代テラスでは公民連携による賑わいづくりを推進している。

【位置図】



【現況道路の概況】

幅員構成	幅員：9.5m 構成：車道7.0m-歩道2.5m
交通規制	相互通行、片側歩道
用途地域	商業地域、準工業地域
土地利用	駐車場、住宅、空き地、結婚式場等
交通量	自動車交通量： 歩行者交通量：
公共交通	公共交通：バス路線なし、バス停なし 駐輪場：3か所

地区全体の将来像の実現に向けて求められる当該ストリートの役割

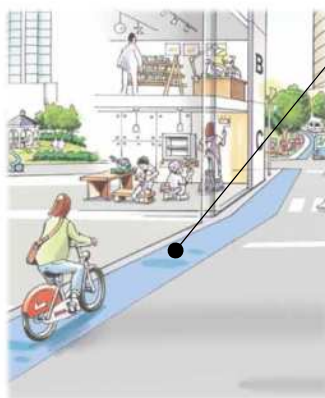
（花園ルート共通の役割）

- ・新潟都心の都市デザインにおける副軸「花園ルート」のコンセプト
新しくなにかが創り出される雰囲気を感じられる。
- ・駅から港へつながる雰囲気作りや、楽しく快適にアクセスできる環境を創出
- ・駅東方面の玄関に位置し、駅から万代テラスや万代島をつなぐ
- ・新潟市自転車利用環境計画（H31.3月）にて「自転車走行空間整備路線」に位置付けられている

【ストリートの将来像】

万代テラスへ向かい歩きたくなる花園ルートの終着点
～万代テラスの眺望に期待感を抱かせる空間演出～

【参考イメージ】



新潟駅とみなとを結ぶ快適な自転車ルート

【将来像の具現化への取組例】

- ・自転車走行環境の確保
- ・案内サイン など

○万代地区と水辺とのつながり・・・万代地区から万代島へと足を運びたくなる雰囲気づくりや、楽しく快適にアクセスできる環境を創出する。

将来

（目指す姿と必要な施策）